

2018年 10月 21日

## 主 日 礼 拝

司 会	①8時半 ①石井師	②10時半 ②石井 秀人兄	③19時 ③石井師
奏 楽	①石井師	②村山けい子姉	③石井師
祈 禱	聖歌498番 & ~主イエス神の愛~		
贊 美			
パウロの祈り①			
聖 書	①コロサイ人への手紙1章9~14節 ②ローマ人への手紙10章9~13節		
特別贊美	バルナバ会		
メッセージ	①「成長のための7つの特権」大川従道牧師 ②「信じる者は救われる」石井 潤牧師		
献 金	聖歌236番 & ~イエスこそが主~		
祝 禱			〔献金当番：渡辺姉・寺澤千姉〕
お知らせ			
贊 美	～あなたはわが力～		

### 【司会者】

礼拝にお越しくださった皆様を心よりご歓迎いたします！  
**《今週のお知らせ》**

1. 本日は「ファミリーの日」のため、第二礼拝後の昼食はありません。
2. 今週の祈祷会：☆早天祈祷会/月曜朝6時。★木曜祈祷会/午前10時半、ボーマン・ルリ子先生。夜7時半、大和祈祷会映像。☆準備祈祷会/土曜夜8時。
3. 明日午前11時半～、長野市の寺澤千鶴子姉宅にて家庭集会が行われます。
4. 来週の日曜午後は聖歌隊の練習（礼拝では隊員有志の特別贊美/10時集合）。

11/3(土・祝):チャペルコンサート(午後2時)	4(日):特別礼拝(ボーマン師夫妻)
11(日):誕生祝福式・聖餐式/子ども祝福式/執事会	

### 一年に一回聖書を完読できる！Bible Reading Plan [10/21～ /28]

Date	日	月	火	水	木	金	土	日
旧約	エレミヤ 5・6章	7・ 8章	9・ 10章	11－ 13章	14－ 16章	17－ 19章	20－ 22章	23・ 24章
新約	1テモテ 1章	2章	3章	4章	5章	6章	2テモテ 1章	2章
チェック	旧	新	旧	新	旧	新	旧	新

## 「信じる者は救われる」

～信仰とは従順すること～

「しかし、律法を完全に守れる人はいない。だから、キリストを見付けようとして、自分の力で天に上る必要もないし、キリストを見付けようとして、自分の力で死人の中を歩き回る必要もない。キリストを信じれば救われるという神の御言葉は、あなたがたのすぐそばにある。これこそ、私たちが宣べ伝えているメッセージである。」

ローマ人への手紙10章6～8節[現代訳]

私たちの信仰ということを深く考えるときに、旧約聖書の列王紀下5章に出てくる「ナアマン大将物語」を思い出します。

ナアマンは旧約聖書時代、北イスラエル王国で、預言者エリシャが活躍していたときに、敵国であったスリヤという国の将軍でした。しかし、ナアマンは軍隊の総司令官でしたが、その武具を脱ぐとその体は、当時の死の病と言われる「ツアラト(らい病)」と呼ばれる重い皮膚病と呼ばれる病に侵されていました。彼の身の回りの世話をしていた召使いの中に、イスラエルから捕虜として連れられてきた娘がいて、彼女が自分の故郷にいる偉大な神の預言者であるエリシャ先生のことを話しました。エリシャ先生ならナアマン大将の死の病を癒してくださるという良き知らせ=ゴスペル=福音を伝えました。藁にもすがる思いで、敵国である北イスラエル王国に向かいました。

しかし、ナアマン将軍がエリシャの所に着いたとき、エリシャ自身は歓迎の意を示さず、弟子の一人に出迎えさせます。それ自体にもナアマンは憤慨しましたが、それ以上に、その言葉の内容に当惑しました。なぜなら、泥まみれの小汚いヨルダン川に7回その身を浸せと命じたからです。ナアマンは預言者自身がやってきて、ナアマン自身に手を置いて、手厚く癒しの祈りをしてくれるものと思っていたが、預言者自身も来ず、ただ、薄汚れたバイ菌だけのような川に身を浸せと命じただけという更なる言葉に怒り心頭、きびすを返して、引き返そうとしました。しかし、彼の部下の中に賢明な人物がいて、こう言いました。「わが父よ、預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じても、あなたはそれをなさらなかつたでしょうか。まして彼はあなたに『身を洗って清くなれ』というだけではありませんか。」その言葉に納得がいって彼は預言者の言葉に従順し、見事に偉大な神の御業を経験することができたのです。

ある著者がこのナアマン大将物語とプライドとの関係について次のように語っています。  
“プライドは私たちを神の道から遠ざけます。私たちは条件付きで神を求めます。私たちの考え、好み、状況、そして私たちに得となること、その願いを押し付けながら神を求めてしまいます。そして、最終的に「そのようにお願ひします」、「それでは困ります」と言ったりします。

神に完全に従順することは、実は辛く苦しいこと。そのために神の言葉に対して完全降伏することから逃げてしまい、条件付きで求めてしまうのです。” Charles Lehardy